

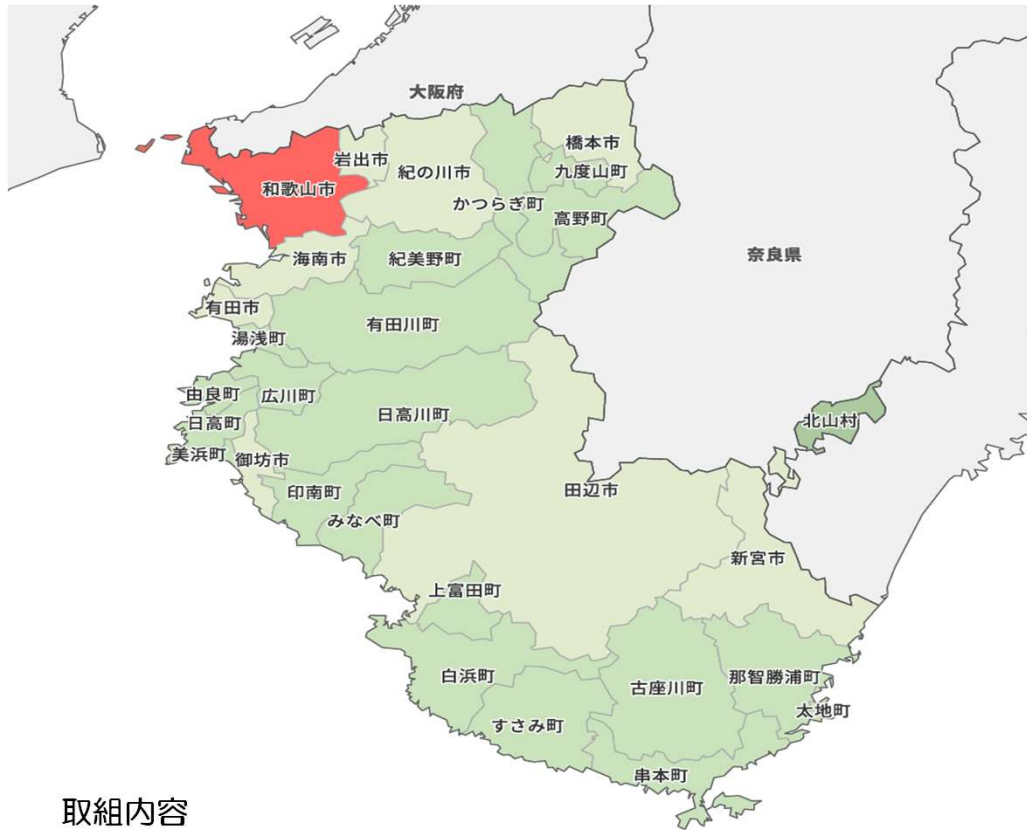
和歌山県、和歌山市、

和歌山市における精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に向けた取組について

和歌山市では、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に取り組むにあたり、医療・保健・福祉の仕事に携わる方、ピアサポーターや家族会が2か月に1度協議をおこない、住民全体の精神保健の課題への対応とともに、精神障害者が地域で生活するための支援や長期入院者の地域移行・地域定着支援などの推進を行っている。誰もが、安心して自分らしく暮らすことが出来る体制の充実や強化に向けた課題抽出し、その解決について検討している。

1 県、指定都市、中核市、特別区の基礎情報

和歌山県・和歌山市



取組内容

- ・協議の場の開催
- ・普及啓発
- ・研修の開催
- ・アウトリーチ事業
- ・和歌山市精神障害者家族ピアサポート事業
- ・心のサポーター養成事業

障害保健福祉圏域数 (R7年1月時点)		1	か所
市町村数 (R7年1月時点)		1	市町村
人口 (R7年1月時点)		352,941	人
精神科病院の数 (R4年6月時点)		4	病院
精神科病床数 (R4年6月時点)		669	床
入院精神障害者数	合計	1,480	人
(ReMHRADより・R4年6月時点)	3か月未満(%:構成割合)	82	人
		5.5	%
	3か月以上1年未満(%:構成割合)	65	人
		4.4	%
	1年以上(%:構成割合)	254	人
		17.2	%
	うち65歳未満	96	人
	うち65歳以上	158	人
退院率 (R4年6月時点)	入院後3か月時点	—	%
	入院後6か月時点	—	%
	入院後1年時点	—	%
相談支援事業所数	基幹相談支援センター数	6(うち4は委託)	か所
(R7年1月時点)	一般相談支援事業所数	13	か所
	特定相談支援事業所数	44	か所
保健所数 (R7年1月時点)		1	か所
(自立支援)協議会の開催頻度 (R6年度)	(自立支援)協議会の開催頻度	12	回/年
	精神領域に関する議論を行う部会の有無	有	無
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた保健・医療・福祉関係者による協議の場の設置状況 (R7年1月時点)	都道府県	有	無
	障害保健福祉圏域	有	無
	市町村	有	無
		1 / 1	か所 / 障害圏域数
		1 / 1	か所 / 市町村数

2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組概要（全体）

- ・自立支援協議会精神障害者部会を開催
2か月に1度、保健、医療、福祉等の関係機関とともに、テーマにそった協議を行い、課題の抽出や、今後取り組むべき内容等について検討。
- ・普及啓発
精神疾患の理解のためのパンフレットの作成、配布
精神障害を含めた障害者の支援がわかるためのDVD作成（地域移行支援の推進）
- ・研修の開催
精神障害者を抱える家族向けの家族教室の開催
精神疾患やひきこもり、ストレス等に対する理解のための市民向け講演会の開催
- ・アウトリーチ支援
精神疾患が疑われる未治療者及び治療中断者、ひきこもり状態の方に精神科医師、保健所相談員による訪問支援を実施
- ・当事者、家族等の活動支援及びピアサポートの活用に係る事業
和歌山市精神障害者家族会が、相談及び面談を行う
- ・心のサポーター養成事業
市民の方等を対象に心のサポーター養成講座を実施（令和6年度～）

3 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組の経緯

・令和2年度

テーマ:入院患者の安心した地域生活に必要とされること

①地域移行支援向けDVDの作成

精神障害の方の単身生活の様子、グループホームでの生活の様子・社会資源の説明等、入院患者の方々が地域生活への不安の軽減につながるようなメッセージを収めている

②統合失調症パンフレット作製

普及啓発と住まいの場の確保を重点的に行うことが必要と考え、民生委員・家主協会向けに啓発物を作成

・令和3年度

テーマ:精神障害によって日常生活に困っている方へ社会資源の情報を届ける

普及啓発パンフレット作成

社会資源の内容(精神科訪問看護、ヘルパー、社会福祉協議会、委託相談、基幹相談の紹介とともに、実際にこれらの制度を使った当事者の声を掲載

・令和4年度

テーマ:介護保険分野との連携

市内にある15か所の地域包括支援センターとの協議を行った

・令和5年度

テーマ:住まいの場であるグループホームと医療・福祉の連携

精神障害の理解促進をグループホーム事業所へも行った。また、医療(病院・訪問看護)との連携や、精神障害のある方への対応についても共有を行った

課題解決の達成度を測る指標	目標値 (昨年度当初)	実績値 (昨年度末)	具体的な成果・効果
①協議の場の開催回数	年6回	年6回	年間のテーマを決め、協議の場の開催(年6回)と合わせ、隔月に事務局会議を実施した。令和5年度の協議の場の参加人数は、延べ259人。地域の関係する支援機関との関係構築と課題を共有することができた。
②地域移行支援サービスの利用	増加	増加	市内の精神科病院においても、地域移行支援サービスの促進が共通認識となりつつあり、サービスの増加となっている。令和5年度支給決定件数は11件。
③普及啓発	増加	増加	パンフレットを作成し配布。継続的に情報を必要とされる方々に届けるため、協議の場に参加の機関や、他、関連機関等にも配布。
④研修の開催	年2回	年2回	家族教室1回、市民向け講演会1回を開催
⑤アウトリーチ事業	年12回	年12回	月1回程度、アウトリーチ事業として精神科医師同伴で訪問し、未治療や治療中断の方へ支援を行った。

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた現時点における強みと課題

【特徴(強み)】

保健・医療・福祉の関係機関を中心に協議の場を開催し、課題の共有と、課題解決の検討をしている
医療機関や地域の相談支援事業所及び行政との間で顔の見える関係が構築されている
ピアサポーターの活動が継続できている

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する役割(取組)	
<ul style="list-style-type: none"> ●精神障害に対する理解促進 ●関係機関や支援、社会資源の情報の共有 ●緊急時を含めた精神障害、症状再燃時の対応やサービスの選択の少なさ ●協議の場で共有した様々な課題の解決のための取り組み ●支援者の支援 ●連携の必要な機関・構成機関の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ●協議の場の醸成 ●機関連携を行い、また、連携できる事例を通して連携強化していく ●介護、高齢分野との情報共有の継続そして、協議の場への参加を継続して行う ●課題の分析 ●既存の支援では支援できない部分を、埋めることができる方法や必要な支援を考える 	行政	関係機関との連携、普及啓発、地域アセスメント、研修会等の開催、地域移行支援の実態把握、課題の抽出
		医療	課題の抽出、退院支援、ピアサポーターの活用、患者の退院意欲向上にむけた働きかけ、地域支援者との連携
		福祉	福祉サービスの充実、地域移行・定着支援の拡充、関係機関との連携強化
		その他関係機関・住民等	関係機関の精神障害の理解、関係する機関や一般市民の方の精神障害の理解

課題解決の達成度を測る指標	現状値 (今年度当初)	目標値 (今年度末)	見込んでいる成果・効果
①協議会開催の継続	6回	6回	機関連携の強化・支援の質の向上
②普及啓発の推進	継続	継続	パンフレット等の配布で精神疾患、障害の理解の促進
③ロードマップ等で圏域の現状と課題を可視化	なし	作成	現状と課題の共有や、今後の必要な取り組みの整理
④研修会の継続(家族教室・市民向け講演会)	各1回	各1回	それぞれの研修会のテーマに沿った対象者の知識の獲得や理解の促進

※指標設定が困難な場合は、代替指標や定性的な文言でも構いません。

6 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築のための連携状況

【にも包括構築の体制】

自立支援協議会の専門部会として精神障害者部会が、にも包括ケアシステム構築の為の協議の場に位置付けている。保健所、相談支援事業所等と協働し、協議の場で課題や取組について検討している。

所管部署名	所管部署における主な業務	連携部署名	連携部署における主な業務
保健対策課	精神保健福祉、協議の場の企画等	障害者支援課	自立支援協議会の主管課、障害福祉サービスの主管課
		生活支援課	生活保護の支給決定、協議の場への参加
		地域包括支援課	和歌山市地域包括支援センターを主管
		高齢者・地域福祉課	高齢者・障害者成年後見センターが配置

各部門の連携状況		強み・課題等
保健	中核市である為市保健所がある 協議の場の企画 研修会の開催	病院、相談支援事業所等との連携が出来ている。メンタルヘルスに課題を持つ人への支援等については、検討を要する。
医療	協議の場の企画 地域の支援者との連携	病院関係者が協議の場に参加していることで地域の支援者との連携が出来ている。症状の増悪時の対応のプランが必要。訪問・往診の充実には検討を要する。
福祉	協議の場の企画、入院中の方に入院中からのかかわりの推進と退院後の支援	入院中から退院後に関わることが出来ている。また、退院後の地域支援においても、他機関との連携が出来ている。
その他関係機関・住民等	ピアサポーターの協議の場や茶話会等への参加 家族会の協議の場への参加	定期的に協議に参加。啓発DVDや啓発パンフレットにピアサポーターをはじめ当事者の声を載せた。さらに、精神科病院内の茶話会への参加が継続して行えている。

※各部門の状況はできるだけ詳しく記載ください

7 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築のための協議の場の実施状況

名称	協議の場の構成員	開催頻度	実施内容	特記事項等(課題・強み等)
自立支援協議会 精神障害者部会	市保健所、医療機関(病院・ 訪問看護ステーション)基幹 相談、委託相談、家族会、ピ アサポーター、障害者福祉課	2か月に1回	テーマに沿って協議を行う	テーマによって参加呼びかけする機関 を調整。一定数の参加があることから、 地域の支援者(精神保健福祉に関わる 機関以外)の感じる課題等を聞くことが 出来る場となっている。

【その他事項】 ※協議の場運営における課題や悩んでいる点、アドバイザーに相談したい事項など、自由に記載ください

8 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けたスケジュール（今年度）

短期目標 (今年度)	協議の場で抽出された課題の整理とその解決	
スモール ステップ	課題を整理し、現在よりもう少し工夫すれば解決が可能となる課題を抽出し解決に向け取り組む。	
時期(月)	実施内容	具体的な取組
R6年5月	DVDお披露目会・和歌山市精神保健福祉の現状と取り組み・地域移行促進の動向・グループワーク	入院中の方へ、安心した退院後の生活へのメッセージになるように作成したDVDを鑑賞。また、和歌山市の実情に応じた取組を考えるため、地域移行支援の現状等を共有し、グループワークを行った。
R6年7月	心神喪失者等医療観察法における処遇の流れ、現状と課題	医療観察法の経緯や仕組みについて学び、地域支援の方法等について考える場とした。
R6年9月	介護保険と障害福祉サービスの連携、グループワーク	障害分野の現状整理及び介護保険の観点から障害福祉に生かせること等について課題等を検討した。
R6年11月	権利擁護について、グループワーク	法テラスの相談の現状と、事例を通してグループワークを行った。
R7年1月	重層的支援体制整備事業、グループワーク	重層的支援体制整備事業を通し、関係機関の連携の重要性や役割等についても検討するグループワークも行った